

2023年10月1日（日）「巻物を開くのは誰か」

ヨハネの黙示録 5:1-5

1 また私は、玉座におられる方の右の手に巻物を見た。その表と裏に文字が記されており、七つの封印がしてあった。2 また一人の力ある天使が、「封印を解いて、この巻物を開くのにふさわしい者は誰か」と大声で叫んでいるのを見た。3 しかし、天にも地にも地の下にも、この巻物を開き、見ることのできる者は誰もいなかった。4 この巻物を開くにも、見るにも、ふさわしい者が誰一人見つからなかったため、私は激しく泣き出した。5 すると、長老の一人が私に言った。「泣くな。見よ、ユダ族の獅子、ダビデのひこばえが勝利を得たので、七つの封印を解き、この巻物を開くことができる。」

【序論】

隠された神の秘密、それは限られた人に対して開示されるものです。神の秘密とは、罪の赦しの福音を中心とした聖書全体のメッセージと言えますが、歴史の最終局面にキリストが再臨するという真理もそこに含まれています。そのような事柄とは縁なく一生を過ごす人も多くなかで、私たちはこのように礼拝に出席し、神のことばに耳を傾けるようになりました。ヨハネの黙示録とはまさに「終局史の秘密」を開示している書であります。これを学ぶ機会はそれほど多くはないかもしれませんが、そのうえ一読するだけでは何を言っているのかが分からないので、どうしても解き明かす人が必要になります。そして、この啓示は常に読者が生きている時代との関わりの中で解釈される必要があるでしょう。私にもその役割が与えられたことを感謝しつつ、今日から5章を開いていきたいと思います。

【本論】

本論 1. 封印された巻物

また私は、玉座におられる方の右の手に巻物を見た。その表と裏に文字が記されており、七つの封印がしてあった。(5:1)

ここに一つの「巻物」が出てきますが、現代人にとって巻物はあまり馴染みのないものかもしれません。当時の本は、パピルスまたは羊皮紙で作られた薄い皮状でできており、紙の先端に心棒を付けてそれに巻き付け、封印するときには蠟で綴じられました。通常、文字は内側に書かれていましたが、法律的な証文の場合は内容の要約が外側に書かれたそうです。

「玉座におられる方」とは神であり、その方の「右の手」は力と勝利を表しています。「七つの封印」が施されているとは、この書が神聖不可侵であって、神の最高機密文書であることを意味します。この表現は旧約的であり、預言書の中で「隠された神の奥義」として何度か登場していました（イザヤ 29:11、ダニエル 12:4）。

また一人の力ある天使が、「封印を解いて、この巻物を開くのにふさわしい者は誰か」と大声で叫んでいるのを見た。(5:2)

「力ある天使」は黙示録の限られた場面で登場しますが(18:21)、ガブリエルまたはミカエルを指すのでしょうか。ここでは巻物の内容そのものよりも、その封印を解くことの重要性が強調されています。この巻物にはこれから開始されていく神のご計画が記されており、それは聖なる計画であるため、聖なる者にしか開くことができないのです。

本論2. 誰にも開けない巻物

しかし、天にも地にも地の下にも、この巻物を開き、見ることのできる者は誰もいなかった。

(5:3)

御使いは全被造物に対して呼びかけましたが、ふさわしい者は一人も出てきません。「天にも地にも地の下にも」とは、世界全体を表す当時の慣用表現です。これは、イザヤ書で言われていた事柄を彷彿とさせます。

あなたがたにとって、このすべての幻は封印された書物の言葉のようになった。これを字の読める人に渡して、「どうぞ読んでください」と言っても、「封印されているから読めない」と答えるであろう。(イザヤ 29:11)

罪ある者にはこの巻物の封印を解くことができないのです。神のご計画は永遠に隠されたものとなるのではないか、成就するのを誰も見ることはできないのではないか。ヨハネはそのような悪い予感がして、絶望に打ちひしがれました。

この巻物を開くにも、見るにも、ふさわしい者が誰一人見つからなかったのも、私は激しく泣き出した。(5:4)

ここでヨハネが激しく泣いた理由を考えてみましょう。私の中で二つの理由が浮かんできました。第一に、彼自身を含め神の御心に適う者が地に存在しなかったということは、誰一人として神の御前に正しく歩めなかった人類史を振り返ることを意味しました。「聖人」と呼ばれる人々の一人でも出てきてくれないのか。主イエス直系の弟子でも無理なのか。その神聖なる巻物を前にして、すべての罪人は怖気づいてしまいました。我々は何と情けない存在なのか、何という歴史を築いてきてしまったのか。

ヨハネがその巻物が開かれることを願ったもう一つの理由が考えられます。それは、そこに書かれているはずの最終的な神の勝利を何としても見たかったからでしょう。ヨハネを含め、神の民はローマ帝国による凄惨な迫害の下にありました。この苦難から解放してください。神の御手の業がどのように起きていくのかを彼は知りたかったのです。暗躍する悪の勢力が滅ぼされるのはいつの日なのか、本当にその日は来るのか。苦しみの現実がどこまでも続いていくような歴史を見れば見るほど、ヨハネはその終わりの日を待ち望みました。神の答えが知りたかったのです。

私たちが生きている現実はどうでしょうか。これから始まろうとしている世界的な出来事を考えるとき、楽観していることはできません。敵基地攻撃能力の保有、43兆円の軍事

費増税など、日本政府が着々と戦争できる体制作りを進めている状況を、私たちはどう見るべきか。国連憲章において、敗戦国が軍備を持った時点で各国がその国を攻撃できる状態になるという「敵国条項」が未だ有効であるにも拘らず、日本は米国から旧型ミサイルを買取り、それを与那国島・石垣島・宮古島に配備してしまいました。7月にはNATO首脳会合に岸田首相が出席、8月の日米首脳会談では日本とアメリカが共同でミサイルを開発する方向で合意しました。これらはすべてCSIS（戦略国際問題研究所）の指示の下で決定されているのです¹。第1世紀の状況とは異なりますが、現代的な脅威—第三次世界大戦—が迫ってきています。この世界が贖われる日が一日も早く訪れるよう、祈らずにはおられません。

本論3. 巻物を開く方

すると、長老の一人が私に言った。「泣くな。見よ、ユダ族の獅子、ダビデのひこばえが勝利を得たので、七つの封印を解き、この巻物を開くことができる。」(5:5)

地上には一人も巻物を開くことのできる者がなく絶望に打ちひしがれていたところ、ただ一人ふさわしい人が残されていました。その方は「ユダ族の獅子」「ダビデのひこばえ」という二つの称号と呼ばれています。これらは旧約聖書で「王的メシア」の称号として用いられた表現です。

①ユダ族の獅子

主イエスがイスラエル十二部族の「ユダ族」から出られたことが、マタイ福音書の系図の中で明らかにされています。創世記において、ヤコブの子ユダは「獅子の子」と呼ばれており、この系図に属する方が来られる日までイスラエルを支配すると約束されました。

ユダよ、兄弟はお前をほめたたえる。お前の手は敵の首を押さえ、父の子らはお前にひれ伏す。ユダは獅子の子。息子よ、お前は獲物を捕って上って来た。そしてうづくまって、身を伏せた。雄獅子のように、雌獅子のように。誰がこれを起こすことができようか。王笏はユダから離れず、統治者の杖は足の間から離れない。シロが来るときまで、もろもろの民は彼に従う。(創世 49:8-10)

この預言の成就者として主イエスは来られました。

②ダビデのひこばえ

原文では「ダビデの根」と訳せる語が使われており、木の切り株から出てくる若芽のイメージがあります。切り倒されたかのようなイスラエル民族に尚も希望が残された。主イエスご自身も十字架で死に、打ち倒された木のようになりましたが、復活によって新しいのちを多くの人にもたらされました。「ひこばえ」とは、切り株から生え出る芽のことですから、主イエスとはまさにそのような世界の希望の星であります。この表現は元々イザヤ書に見られました。

エッセイの株から一つの芽が萌え出で、その根から若枝が育ち、その上に主の霊がとどまる。
知恵と分別の霊、思慮と勇気の霊、主を知り、畏れる霊。(イザヤ 11:1-2)

主イエスは、このように、「ユダ族の獅子」「ダビデのひこばえ」という称号で呼ばれていますが、それと同時に「屠られた神の小羊」でもあられます。全世界の王にして、新しいいのちのもたらし手であり、神に受け入れられる完全ないけにえでもあられる。この方の「勝利」は、十字架の死に至るまで神に従順を示し、復活することによって獲得されました。主は完全な非暴力によって死と悪魔に打ち勝たれたのです。この主イエスこそが、巻物の封印を解くのにふさわしいただ一人のお方です。

【結論】

これから開かれていく「巻物」により、歴史の終局の真理が啓示されていきます。私たちはその啓示を特別に聞くことが許されている者として、心してこの御言葉に耳を傾けていかななくてはなりません。私たちが生きる現実にも試練が押し迫ってきていますが、イエス・キリストにある勝利を握りしめながらこの時代を乗り越えていきたいと思えます。主イエスが私たちの傍に立ち、一緒に巻物（黙示録）を開き、どんなときにも共にいる、私はすぐに来ると約束してくださっています。この方に依り頼み、日々私たちにできる精一杯の生き方をしてまいりましょう。

【祈り】

救い主イエス・キリストの父なる神様。聖書を通して主イエス来臨の希望を語ってくださっていることを感謝いたします。困難な歴史は繰り返されますが、聖徒たちはどのような時代にあっても主の御言葉を握りしめて歩きました。私たちにも信仰を与え、この世にあっても尚も光として輝かせてください。私たちが信じる方は光の中の光、全被造物が待ち望む「ユダ族の獅子」「ダビデのひこばえ」です。私たちもまた、この方に希望を置いて歩むことができますように。

【祝祷】

仰ぎ願わくは、
旧約より救い主の到来を予告し、時至って御子を世に遣わし給うた、父なる神の愛、
「ユダ族の獅子」「ダビデのひこばえ」「屠られた神の小羊」として、全き平和を実現させ給う、主イエス・キリストの恵み、
主を待ち望む信仰に立たせ、忍耐をもってこの世を歩ませ給う、聖霊の親しき交わりが、
あなたがた一同の上に、限りなくあらんことを。

ⁱ 戦後の日本を復興させる計画は、ロックフェラー家三代目当主デイビッド・ロックフェラーの「世界経済のマネージメント、ないしはコーディネーションに日本を参加させようではないか」という鶴の一声でスタートしたと言われる。裏の計画として、日本をアメリカ型の工業化社会に発展させ、ソ連という共産国の防波堤にする計画が立てられていたという。日本が大発展する元にあったのは「太平洋評議会」で、これはロックフェラーグループが作った日本監視システムである。ロックフェラーはアメリカにCIAとFBIを作ったが、これは一見国の組織のように見えるがそうではなく、実は民間の組織なのだ。CIAは他国の情報収集、政権転覆、属国の管理などを行ない、鳩山一郎と児玉誉士夫を組ませ、自民党を政党にする手助けをした。更に、吉田茂を中心にGHQとマッカーサーの言いなりの政策を進めさせ、当時の内務省（当時の戦争計画機関）を解体して通産省を作り、日本を商売をするための国とした。自民党はCIAの意向で動かなくてはならず、年次改革要望書がアメリカ政府から出され、太平洋協議会で研究したスタッフたちによってまとめられたレポートが日本に対して提出される。小泉政権の郵政民営化も然り、日本はアメリカの属国としてマネーを吸い取られる立場にあるのだ。因みに、日本のテレビ放送はすべてCIAの管理下にあり、アメリカの意向に沿わない報道はしてはならないことになっている。

リチャード・アーミテージはベトナム戦争の英雄として、映画「ランボー」の主人公のモデルともなった人物である。当時彼はアメリカ軍トップ直属の特殊部隊に入っていて、1975年4月に北ベトナム軍が迫る中、アメリカの国防総省から特定南ベトナム人救出の実行を頼まれ、わずか1週間でその任務を完了した。その後、彼はレーガン政権、ブッシュ政権に迎えられ、国務副長官という地位で活動した。ロナウド政権時代は国防次官補代理、2001年のブッシュ政権では国務副長官を務めている。イラクのフセイン大統領が大量破壊兵器を持っているとして攻め込み資源を奪い取ったのも、彼の戦略による。チェイニー、ラムズフェルト、ブッシュ、バイデンなどの超ネオコンは、戦争で他国を潰して資源を奪うことをビジネスとしてやっている。ロシアの石油と天然ガスを奪おうとしてウクライナを10年がかりでユダヤ（ハザール）勢力の国にし、コロモイスキーに資金援助をしてテロ組織を作り、ゼレンスキーを大統領にしてウクライナにミサイル基地を作る計画を立て、プーチンを挑発して戦争に引きずり込み、今に至る。

アーミテージはジョセフ・ナイ教授と共に日本の地下資源を奪い取る計画を立てている。1968年、日本近海に空前絶後の地下資源が眠っていることが判明した。茨城県沖、茨城県・千葉県・東京都の地下、島根県沖の竹島にはサウジアラビアの数十倍から数百倍の天然資源が眠っているという。当初、韓国と日本は共同で第七鉱区の石油を採掘する計画を立てていたが、韓国による繰り返しの嫌がらせにより、日本は2028年を待って単独で石油を開発することにした。ところが、その計画が実行される前に日本国家を解体する計画がアーミテージによって立てられたのだ。それが「日中戦争計画書」であり、その計画によると、まず中国を台湾との戦争に引きずり込み、そこに日本を参戦させ、中国との一騎打ちに持ち込み、米軍はその間に撤退し、日本が兵糧攻めに遭い原発を破壊されて虫の息になっているところに外から和平を持ち込み、最終的に国連の共同管理地にするというものだ。2023年に日本とアメリカがやたらと同盟を強調していることや、ペロシを台湾に送り込んで中国を刺激したことや、日本の敵基地攻撃能力の保有、43兆円の軍事費増税など、これらはすべてアーミテージによって決められたことで、岸田政権はそれに従っているにすぎない。

2009年に民主党が政権を取ったとき、民主党は中国と蜜月関係にあるので、アメリカは年次改革要望書を出すことができなくなった。それ以前にアーミテージはCSIS（戦略国際問題研究所）を立ち上げていたが、この機関から2000年、2007年、2012年、2018年、2020年と立て続けにレポートを提出した。民主党が潰されて第二次安倍政権に戻ると、2012年に提出された「第三次アーミテージレポート」に沿った政策が進められていった。その内容は以下の通りである。

-
1. 原発再稼働
 2. 海賊対処：ペルシャ湾の船舶交通保護、シーレーン保護、イランの核開発への対処
 3. TPP交渉への参加
 4. 日韓歴史問題直視、日米間軍事的関与
 5. インド・オーストラリア、フィリピン、台湾などとの連携
 6. 日本の領域を超えた情報監視偵察活動、平時偵察活動、平時緊張危機、戦時の米軍との自衛隊の全面協力
 7. 日本単独でのホルズ海峡に派遣、米軍との共同による南シナ海における監視活動
 8. 日米韓の、あるいは日本が保有する国際機密の保全
 9. 国連平和維持活動PKOの法的権限の範囲拡大
 10. 集団的自衛権の禁止は同盟にとって障害
 11. 共同訓練、兵器の共同開発、ジョイントサイバーセキュリティセンター
 12. 日本の防衛産業に技術の輸出を行うよう働きかける

以上の内容を見る限りにおいて、安倍政権、菅政権、岸田政権が「第三次アーミテージレポート」に沿った政策を忠実に実行してきていることが分かるだろう。そして、今後日本で起こるであろうことが想像できるはずだ。自民党が現行のまま突き進むならば……の話ではあるが。